# 拓北・あいの里地区社協ミニ通信

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

拓北・あいの里地区社会福祉協議会
会長：渡邉　寛　　広報部長：森下　満

No 80　　令和 5年 12月 18日

***12月6日(水)に社協常任理事会が行われました。***
***各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。***

**9月末の北海道医療大学移転報道は当地区にとって大きなショック！でした。地区社協として何とかせねば、と声をあげています。**

## ▌総務部より ▌

・９月末の北海道医療大学（病院等）移転報道について、10月以降、拓北・あいの里地区の連合町内会、民児協、社協の三者合同で、当事者の大学法人理事長への病院等の存続と丁寧な情報提供を求める要望を行うと共に、市長、区長、道議、市議等の行政関係者や北海道新聞の取材に移転報道に伴う地域住民の不安の声や病院存続への支援を強く訴えてきました。今後も事態の推移を注視し、対応してまいります。

・11月14日（火）、４年ぶりの**他地区の福祉施設見学研修として、岩見沢市の「社会福祉法人クピドフェア」を参加者18名で訪問**しました。クピドフェアとは天使が集い愛が溢れる場の意で、1966年設立から57年目を迎えました。**障がい者と高齢者の福祉を担う複合的な施設**で、障がい福祉サービス事業所、障がい者支援施設、身体障がい者療養及び授産施設、特別養護老人ホーム、通所介護デイサービスセンター、居宅介護支援事業所などに加えて診療所、レストラン、カフェ、簡易郵便局、コンビニなども併設されています。職員総数220名、障がい入所者数170名、高齢入所者数145名の規模の大きい施設です。素晴らしい施設で、参加者の皆さんはとても勉強になったようです。

18名が参加した11月14日の岩見沢市クピドフェアの見学研修。障がい福祉サービス事業所でベアリングを製作している様子を見学しているところ

◇ 今後の予定 ◇

**「認知症対応事例研修会」**
**2024年2月３日（土）14時から、地区センター多目的ホール**にて開催予定。
内容：**認知症基礎講座、認知症対応ケース意見交換会など**
対象：**町内会関係役員、見守り活動に関心のある方など**

## ▌ふれあい交流部より ▌

・**11月９日（木）の「ひまわりクラブ」**は地区センター和室に**３組６名の親子さん**がいらっしゃいました。
**次回は来年の１月11日（木）10：00～11：30、地区センター和室にて開催予定**です。

・**12月14日（木）の「ひまわりクラブのクリスマス会」**は地区センター多目的ホールに**22組46名の親子さん**が参加され、柴田副部長の開会挨拶に始まり、**自由遊び、紙芝居、紙人形劇（ペープサート）、寸劇・大きなかぶ、サンタさんから24名のお子さんたち全員へのプレゼント、**などを楽しまれました。

３組・６名の親子さんたちが参加した、11月９日のひまわりクラブ

22組・46名の親子さんたちが参加した、12月14日のひまわりクラブのクリスマス会で紙人形劇を楽しまれている様子

クリスマス会でサンタさんから24名のお子さんたち全員へプレゼントをあげている様子

ご高齢の方16名が参加し、けんぱなどを楽しまれた11月16日の福まちサロン

［➜裏につづく］

・今年度最後の「福まちサロン」が 11 月 16 日（水）、地区センター多目的ホールに 16 名の高齢者が参加され、軽い体操、けんぱ、お絵かきゲーム、ビンゴゲーム、ボールゲーム、じゃんけんゲームなどを楽しまれました。来年度またお会いしましょう

## ▌地域ケア部より ▌

11月例会は 21 日(火)18:30-20:00、地区センター2 階集会室にて、居宅介護支援事業所ら・せれな管理者の長崎亮一（ながさき・りょういち）さんをゲストに、「ら・せれなの認知症カフェ-施設紹介・認知症を取り巻く社会環境とともに-」をテーマに話題提供をいただき、意見交換を行いました。地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行われ、参加者は地区センター23 名、オンライン 5 名、合計 28 名。

2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症になると言われる中、2023 年 6 月 14 日、認知症の人が希望を持って暮らせるように国や自治体の取り組みを定めた「認知症基本法」が成立しました。認知症カフェは 8 年前の 2015 年から開始され、認知症の当事者の方が通うことでその方や家族の方が孤立してしまうリスクの軽減や、認知症の当事者・家族にサービスを提供することで普段の介護で感じている負担やストレスの軽減を図るメリットがあります。また、地域の方々に認知症のことを理解してもらうことにより、地域全体で住みよい街づくりができることにも繋がります。

さらに、認知症で問題なのは、当事者・家族が違和感を感じて診断を受けるまでの期間が長くなりがちな「入口問題」と、診断後から介護保険サービスを受けるまでの間に何も支援がないなどの「空白の期間」があることですが、それらに対して認知症カフェが大きな役割を果たすものと思われます。

ら・せれなでは、また来たいと思えるカフェ、私たちが楽しむ！カフェをコンセプトに、『輪っカフェ』と名付けた認知症カフェを年 3 回、土曜日に行っています。

参加者からは、同居する家族が認知症になり介護のストレスを訴える切実な声がありました。それを受けて事務局の長谷川は認知症カフェを介護施設内に限定することなく、開かれた地域社会の中に設置することの必要性を指摘するなど、白熱した議論が展開されました。

地区センター23 名、オンライン 5 名、合計 28 名が参加した、11 月 21 日の地域ケア部の 11 月例会

11 月例会でテーマとなった「居宅介護支援事業所ら・せれな」（百合が原 3 丁目 1-1）の外観

ケアセンターら・せれなの認知症カフェ『輪っカフェ』の様子（提供：長崎亮一さん）

### ◇ 次回および次々回例会のご案内 ◇

次回の 12 月例会は 19 日(火)18:30-20:00、地区センター2 階集会室にて、介護老人福祉施設白ゆりあいの里施設長の清澤郭益（きよさわ・ひろみつ）さんをゲストに、「介護施設はコロナ禍をどう乗り切ったか-病院との違い、5 類移行後の課題について-」をテーマに話題提供をいただき、意見交換を行う予定です。また、次々回例会は来年の 1 月 16 日(火)18:30-20:00、地区センター2 階集会室にて行う予定です。

地区センターでの対面とオンラインでのハイブリッド方式で行います。来場できないがオンラインで参加の方には Zoom アクセス情報をお知らせします。その他の方はケア施設町内会事務局・長谷川までメール hasepy55@gmail.com でお問合せ下さい。